

### 景気動向調査の概要 【2024年7～9月】

「緩やかに回復」との回答が増加、景気持ち直しへの期待感が続く  
～今夏の猛暑がコストアップや生産性の低下に影響～

景気の現況は「足踏み状態」との回答が48.3%で最も多く、次いで「緩やかに回復している」44.8%、「緩やかに後退している」6.9%が続いた。

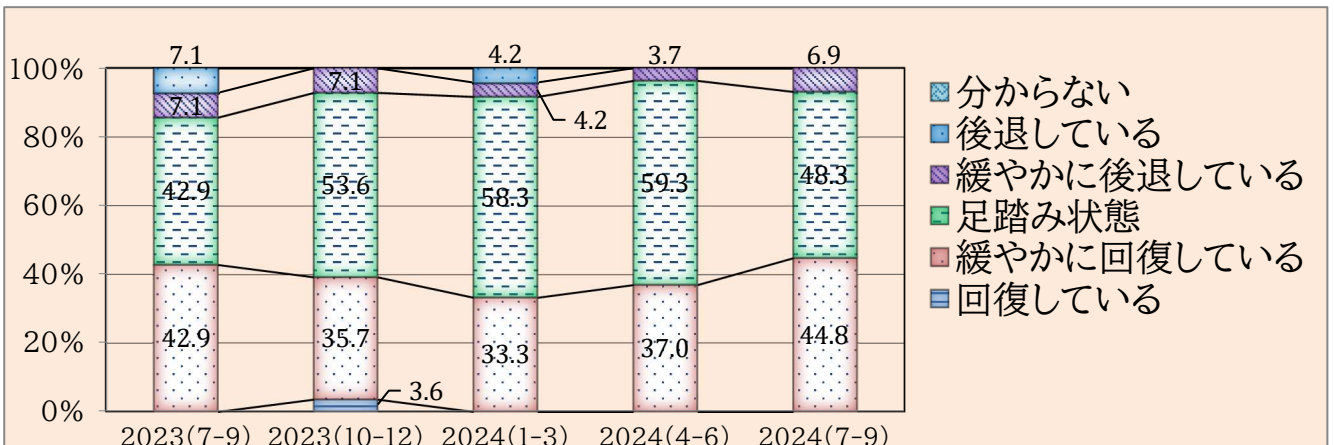
前回調査で約6割を占めた「足踏み状態」は48.3%（前期59.3%）と11.0%ポイント減少したのに対して、「緩やかに回復している」は7.8ポイント増加の44.8%（前期37.0%）、「緩やかに後退している」は3.2ポイント増加の6.9%（前回3.7%）となるなど、景気全体は概ね底堅い動きが見られる状況となった。

今期の業況判断DIは、19.0ポイント減少の6.9（前期25.9）と低下した。一方、来期の見通しDIは、2.7ポイント増加の13.8（前期11.1）となり、2期連続で改善傾向が見られるなど、景気持ち直しへの期待が続く結果となった。

製造業では国内向けの自動車・産業機械用の電子部品等の需要が増加したほか、医薬品業界においては、ジェネリック向け原薬の販売が堅調に推移した。一方で、中国経済の低迷などから、期待されたインバウンド需要の影響も少なく、化粧品をはじめ商品パッケージの取り扱いが不調となった。

非製造業においては、富裕層の購買意欲が堅調であり、時計やバッグ、宝飾品などの高級品の動きが好調であったほか、飲食料品に関しては値上げにより客単価が上昇したことで売上が伸びた。一方、今夏の高温で果物等の生育に影響し、品質劣化に繋がったほか、物価高等により節約志向が強くなり、食品以外の消費を控える傾向が強かった。

また、今夏の記録的な猛暑の影響として「政府の補助事業終了に伴い、光熱費が嵩んだ」「従業員の身体への負担等を考慮し、空調機器等の入れ替えを実施した」などのほか、「屋外での作業が多く、熱中症対策から休憩時間が多くなり、生産性が低下した」といった意見が見られた。



#### 2. 前期との比較と来期の見通し

		2023年7-9月期	2023年10-12月期	2024年1-3月期	2024年4-6月期	2024年7-9月期	2024年10-12月期
前期比	好転	35.7	50.0	29.2	40.7	31.0	-
	不変	42.9	32.1	41.7	44.4	44.8	-
	悪化	21.4	17.9	29.2	14.8	24.1	-
	DI	14.3	32.1	0.0	25.9	6.9	-
来期の見通し	好転	25.0	28.6	35.7	25.0	25.9	20.7
	不変	64.3	46.4	50.0	64.2	59.3	72.4
	悪化	10.7	25.0	14.3	20.8	14.8	6.9
	DI	14.3	3.6	21.4	4.2	11.1	13.8

#### <実施要領>

- 調査期間 2024年9月25日～10月4日
- 調査対象 当所景気モニター企業 30社
- 調査方法 調査票を郵送しFAXおよびGoogle Formで回収
- 有効回答数 29社 (回収率96.7%)